

## 中学部年「公開防災教育」学習指導案（共通）

日時：平成29年12月20日（水）

11:00 ～ 11:30

場所：中学部棟各学年教室

1. 題材名 「学校で自分が寝る場所を作ろう」

2. 本時のめあて

A層	教師に介助や支援をされながら教室で横になったり、その場で過ごしたりすることができる
B層	教師や友だちの仕方を見て、横になることがわかり、5分程度横になることができる
C層	就寝場所を作る際にどんなことに気をつけるのかがわかり、考えながら自分の就寝場所を作り、就寝体験をすることができる。

3. 授業計画

日時	学習内容
12月14日（木） 5時間目	・大きな災害時には自宅に帰れないこともあることを知り、学校に宿泊する場合の就寝の仕方を考え、必要な物が分かる。
12月20日（水） 3時間目	・前回学習した「学校で寝る」ことを、各教室で実際に体験する。

4. 授業内容

（1）展開

時間	学習活動	教師の意図と働きかけ	評価の視点
5	1、前回の学習を振り返り、本時の学習内容を知る	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時は実際に就寝場所を作って体験することを伝える。</li> <li>○就寝に使えるものについて思い出させる。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんなものが就寝の際に使えるのか、覚えているものを発表させる。</li> <li>・言葉での発表ができない生徒には、写真や実物を見せて選ばせる。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就寝の際に使えるものを発表したり、選んだりすることができたか。</li> </ul>
18	2、どんなことに気をつけて就寝場所を作るのか考え、実際に就寝場所を作る	<ul style="list-style-type: none"> <li>○朝まで学校で寝なくてはならないとしたら、どんなことに気をつけて就寝場所を作らなければならないか問いかける。その際、着替えができるように男女で分けられたり、体調面を考えてベッドがあるところに分けられたりすることを伝える。自分の防災バッグを持てる生徒は、自分で持つように投げかけ、教室を移動させる。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・より災害のイメージが持てるように、電気を消し、カーテンを閉める。</li> <li>・いつもと違う雰囲気に緊張して教室には入れなかったり、飛び出したりする生徒に対しては、無理強いせず、近くの教室や廊下から様子を見せるなどして、慣れさせるようにする。</li> </ul> </li> <li>○就寝場所を作るためのいくつかの素材を所定の場所から教師が運び入れる。少しでも寝やすくするには、何をどのように使えばいいか、</li> </ul>	

5	3、感想発表をする	<p>考えることを促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室には机や椅子があるため、どうしたら寝ることができるか投げかけ、机や椅子を移動し、スペースを作ることに気づかせる。その際、危険物がないか教師が確認し、ガラスが割れている場合は、可能な限りその場から離れることも付け加える。</li> <li>・生徒に実際に素材を触らせて、いくつかの考えを導き出せるようにする。</li> <li>・生徒の意見が出ないときは、教師が実際に床に寝て見せて、床の固さや冷たさを伝えることで、ヒントにする。</li> <li>・例えば、床に直接寝ると段ボールを敷くのはどちらが寝やすいか、その他の素材を組み合わせてより寝やすくするにはどうすればよいか考えさせる。「どちらが温かい?」「どちらが固くないかな?」などの言葉を投げかけて、手元にある素材で少しでも寝やすい就寝場所を作るように促す。</li> <li>・ベッドを使う生徒は、教師が周囲の危険物を確認した後、使用可能と判断し、日頃使用しているベッドを使用し、身体への負担を減らす。ベッドの破損などにも気をつけ、ベッドから転落しないように配慮する。</li> <li>・身体の姿勢に配慮しなければいけない生徒は、リクライニングシートや簡易ベッドを使用し、就寝の体勢に備える。</li> <li>・体温調整が難しい生徒は、個人の毛布に加え、カイロを使う、加湿器の代わりにマスクを付けるなどして可能な限り体調管理をする。</li> <li>・自分たちが一番良いと感じた就寝場所ができたら自分の防災バッグを近くに置き、必要に応じて荷物を出し入れさせて、防災バッグは、自分の持ち物であることや自分で管理することを確認する。</li> <li>・就寝場所で荷物の確認が終わったら、5分ほど横になるように促す。</li> <li>・寝ることができない場合やその場で動き回る生徒は、無理に横にするのではなく、教師がそばに寄り添い、教室や防災バッグにある本などを利用するなどして静かに過ごすように促す。 (周囲が暗い場合を想定し、光が刺激になる端末機や電源を使うものは生徒に使用させない)</li> <li>・日頃と違う雰囲気緊張しないように表情を見ながら安心するような言葉かけをする。</li> <li>・活動の様子を iPad で撮影し、振り返りに役立つ。</li> </ul> <p>○実際に就寝場所を作り、横になってみた感想を発表させる。必要に応じながら iPad で振り</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校に就寝する際に、「寒さ」や「床の堅さ」を和らげることが大切であることが理解できたか。</li> <li>・「寒さ」や「床の堅さ」を和らげるために、いろいろな資材の上に寝てみたり、利用できるものを試したりすることができているか。</li> <li>・5分程度、横になって静かに過ごすことができたか。</li> <li>・横になれなくても、その場で落ち着いて過ごせたか。</li> <li>・教師の支援を受け入れて、落ち着いてベッドで過ごせたか。</li> </ul> <p>・自分の言葉や○×等で、感想を伝えるこ</p>
---	-----------	---	---

2	4、まとめと講評を聞く	返る。 ・言葉で感想が言える生徒には発表を促す。 ・思いを言葉で表現することができない生徒のために、「寒かったですか」「身体が痛かったですか」「朝までずっと眠れそうですか」などの教師の問いかけに○×で答えさせる。 ・ <b>ベッドで寝る生徒は、教師が「お話を聞いているよ」「落ち着いているよ」など日頃と違う状況でも支援を受け入れられていることを認める。</b> ○活動に意欲的に取り組めたことなどを評価する。もし災害が起こった時には、今日のことも思いだし、学校で友だちや先生と落ち着いて過ごせば大丈夫であることを伝え、安心してほしいことを伝える。	とができたか。
---	-------------	---	---------

※ゴシック体の部分は、体調や姿勢保持など特に身体面に配慮を必要とする生徒

(2) 場面設定

- ・大きな災害が発生し、自宅に帰れないので、学校で宿泊をすることになった。停電状態。防災バッグは教室にあり、教室にて就寝準備をする。
- ・男女差や体調面を考慮して、学年を基本にて各教室に分かれる。
  - (1年生) 1-1 (男子) 1-2 (女子) 1-4 (女子・男子 ※ベットが必要な生徒)
  - (2年生) 2-1 (男子) 2-2 (女子 ※ベットが必要な生徒を含む)
  - (3年生) 3-1 (女子) 3-2・3 (男子) 3-4 (男子 ※ベットが必要な生徒)

(3) 教材・教具 (学年に応じて種類や枚数を揃えている。就寝時に使う素材は、各学年の教室の近くに保管して置き、災害時は、危険場所を回避しながら教師が運ぶ)

- ・段ボール、ウレタンマット (床に広げて床からの冷気を防ぐ。)
- ・毛布、エマージェンシーシート (横になる時に身体にかける。エマージェンシーシートについては、これまで使った経験が少ないので、災害時に使うことのよさを伝える)
- ・ビニール袋、新聞紙、個人の衣服 (生徒によってはビニール袋に新聞紙や衣服を中につめてクッションにし、床に敷いて柔らかくしたり、保温に使ったりする)
- ・個人の防寒具、毛布
- ・個人ベッド、リクライニングシート、簡易ベッド

## 高等部 1 年「公開防災教育」学習指導案

日 時:平成 29 年 12 月 20 日(水) 11:00～12:00

場 所: 体育館、調理教室

授業者: 河内山智美 麻生久仁子 熊本浩介

他高等部 1 年職員

1. 題材名 「避難後の生活について～災害時の食事～」

2. 本時のめあて

めあて	<p>全体: 大きな災害が起きたとき、避難生活が普段の生活とどう違うのかを食事を通して知る。</p> <p>A層～調理された防災食を教師に介助されながら食べる。</p> <p>B層～友だちの様子を見ながら防災食の準備と試食をする。</p> <p>C層～災害時の食事の工夫方法や、ラップを使った物資を無駄にしない方法を理解する。</p>
-----	---

3. 授業計画

日 時	学 習 内 容
1 1 月 9 日 (木) 3 時間目	大きな災害が起きたとき避難生活が普段の生活とどう違うのかを知り、自分の防災バックの中身を確認する。また、実際に非常食を食べてみることで、避難生活を体験する。
1 2 月 2 0 日 (水) 3、4 時間目 (本時)	避難生活が長引いたことを想定し、食事、トイレ、防寒・睡眠が普段の生活とどう違うかを知る。また、支援物資として届けられたものや防災バックの中にあるものを利用した、災害時の食事の工夫を知る。

4. 授業内容

(1) 展開

時間	学習活動	教師の意図と働きかけ	評価の視点
10	《体育館に学部集合》 1、本時の学習について知る。	○本時の学習内容、進め方を知らせる。 ・校内で避難生活を送る場面を想定し、学年毎に次のテーマについて実際に体験して伝える。 1年～災害時の食事の工夫 2年～災害時のトイレの使用 3年～災害時の防寒と睡眠の工夫	・各学年がどのような学習に取り組むかが (A, B～わかったか) (C～理解できたか)
30	《各学年で集合》 2、本時の具体的な活動内容を知る。  3、作り方を見ながら、クラスで協力して調理や試食準備を行う。	○支援物資として届けられたものや防災バックの中にあるものを利用して、簡単な調理を行うことを知らせる。 ・避難生活が長引いた想定であることを知らせる。 ・「じゃがりこポテトサラダ」の調理過程を写真を見せながら知らせる。  ○クラス毎に協力して調理と試食準備を行わせる。 ・各クラスに作り方の紙を配布する。 ・担任は、互いに声を掛け合って協力して作業を行えるよう支援する。 ・ラップをすることで、割り箸や紙皿も繰り返し使え、洗い用の水も必要ないことに気づかせる。	・災害時の食事の工夫方法を理解できたか (C) ・クラスで協力して調理と試食準備を行えたか (B, C) ・災害時の物資を無駄にしないための工夫について (B～体験できたか) (C～理解できたか)
	4、できあがったものを試食	○できあがったものを試食させる。	・試食を通して、災害

	<p>する。</p> <p>《体育館に学部集合》</p> <p>5、各学年が活動内容と感想を発表し、学習内容を共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・味やにおい、固さ等について、お菓子のまま食べた場合や普通に作ったポテトサラダとの違いがあるかどうかを考えさせる。</li> </ul> <p>○各学年の学習の様子を写真や動画で撮影したものを見せ、学習の概要と生徒の感想を各学年の代表者に発表させる。</p>	<p>時の食事を体験できたか（A～C）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年がどのような活動をしたかを知ることができたか（A, B）</li> <li>・各学年の取り組みを理解できたか（C）</li> </ul>
--	--	--	---

(2) 場面設定

大きな災害が起こり、学校での避難生活が長引いた状況を想定する。

(3) 教材・教具

パワーポイント、防災バック、じゃがりこ、ツナ缶、クラッカー、お湯、紙皿、割り箸

## 高等部2年「公開防災教育」学習指導案

日 時：平成 29 年 12 月 20 日（水）11:00～12:00  
場 所：体育館 高等部棟 1 階トイレ 1 階外トイレ  
授業者：河内山智美 麻生久仁子 熊本浩介  
他高等部 2 年職員

1. 題材名「避難後の生活について～災害時のトイレの使用②～」

2. 本時のめあて

めあて	<p>全体：大きな災害が起きたとき、避難生活が普段の生活とどう違うのか、トイレの使用を通して考える。</p> <p>A層～断水時に、教師や友達の仕方を見てバケツでトイレの水を流すことができ、そのためには水を備蓄する必要があることやプールの水が使えることを理解する。</p> <p>B層～断水時、配管に大きな問題がなければバケツで水を流すことができることを理解し、そのための水の確保や運搬について考えて行動できる。</p>
-----	--

3. 授業計画

日時	学習内容
12月7日（木） 4時間目	大きな災害が起きたときには避難所に避難することや、普段の生活とは違う生活を送ることを知る。また、断水や停電が起きたときのトイレの使用方法について考える。
12月20日（水） 3・4時間目（本時）	避難生活が長引いたことを想定し、食事、トイレ、防寒・睡眠が普段の生活とどう違うかを知る。また、断水や停電時のトイレの使用方法や水の確保など実際に体験する。

4. 過程

(1) 展開

	学 習 活 動	教 師 の 意 図 と 働 き か け	評価の視点
10	《体育館に学部集合》 1、本時の学習について知る	<p>○本時の学習内容、進め方を知らせる。</p> <p>・校内で避難生活を送る場面を想定し、学年ごとに次のテーマについて実際に体験してみることを伝える。 1年～災害時の食事の工夫 2年～災害時のトイレの使用 3年～避難所での防寒と睡眠の工夫</p>	<p>・各学年がどのような学習に取り組むかが（A～分かったか）（B～理解できたか）</p>
30	《各学年で集合》 2、本時の具体的な活動内容を知る  3、各トイレに分かれてバケツの水を流す見本を見る	<p>○災害時に使用する非常用トイレを見せて、様々なトイレがあることを確認する。</p> <p>・今回は、配管に問題がない状況であることを確認し、トイレに水を流す体験をすることを伝える</p> <p>○前回みた動画をもう一度見せ、断水だが、配管に大きな問題のない場合はトイレをそのまま使用できることを思い出させる。</p> <p>・流すときのポイントを確認する。</p> <p>○クラスに分かれて、教師がバケツで水を流す見本をみせる。</p> <p>・ポイントを確認しながら便器の中央めがけて一気に流す</p> <p>○備蓄の水がなくなったらどうすれば良いか問いかけ、</p>	<p>・様々な非常用トイレがあることが分かり、本時はトイレに水を流す活動をする事が分かる （A・B）</p> <p>・断水時に活用できる</p>

20	<p>4、備蓄の水を活用したり、プールから水をくみ、各トイレまで運搬したりする</p> <p>5、用意した水でトイレを流す</p> <p>《体育館に学部集合》</p> <p>7、各学年が活動内容と感想について発表し、学習内容を共有する。</p>	<p>活用できるものはないか考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・流すためには水が必要であることに気付かせ、ペットボトルで備蓄していた水やプールの水が活用でき、運搬できる生徒はプールから水を運搬する。</li> </ul> <p>○備蓄の水やプールの水を利用してトイレを流す</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師がポイントを確認しながら便器の中央めがけて一気に流す</li> </ul> <p>○各学年の学習中の様子を写真や動画で撮影したものを見せ、学習の概要と生徒の感想を各学年の代表者に発表させる。(時後、感想を書かせる)</p>	<p>水がないか考え、用意したり運搬したりできたか (B)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・断水時の水の流し方が理解できたか (A、B)</li> <li>・各学年がどんな活動をしたかを知ることができたか (A)</li> <li>・各学年の取り組みを理解できたか (B)</li> </ul>
----	--	---	---

(2)場面設定 大きな災害が起こり、学校での避難生活が長引いた状況を想定する。断水となったが、配管に大きな問題は起きていないため、バケツでトイレの水を流すことが可能である。

(3)教材・教具 感想用紙、バケツ、ゴミ箱、水の入ったペットボトル、雑巾、パワーポイント、iPad

## 高等部3年「公開防災教育」学習指導案

日 時：平成 29 年 12 月 20 日 (水) 11:00～12:00

場 所：体育館

授業者：河内山智美 麻生久仁子 熊本浩介

他高等部 3 年職員

### 1. 題材名「避難後の生活について ～災害時の防寒、睡眠～」

#### 1. 本時のめあて

めあて	<p>全体：大きな災害が起きたとき、避難生活が普段の生活とどう違うのか、防寒・睡眠を通して考える。</p> <p>A層～教師の支援でやってみて実際に暖かくなることを確認する。</p> <p>B層～教師や友達の様子を見て実際に自分で行ってみて暖かくなることを確認する。</p> <p>C層～教師の指示で自分たちが様々な素材を使ってどうやったら暖かく休めるかを考える。</p>
-----	--

#### 3. 授業計画

日時	学習内容
11月20日(月) 6時間目	大きな災害が起きたときには避難所に避難することや、普段の生活とは違う生活を送ることを知る。 また、学校内にある防寒に役立つ物を考える。
12月20日(水) 3・4時間目(本時)	避難生活が長引いたことを想定し、食事、トイレ、防寒・睡眠が普段の生活とどう違うかを知る。 また、避難所での生活の中で防寒・睡眠についての具体例を実際に確認する。

#### 4. 過程

##### (1) 展開

	学 習 活 動	教 師 の 意 図 と 働 き かけ	評 価 の 視 点
10	《体育館に学部集合》 1、本時の学習について知る。	○本時の学習内容、進め方を知らせる。 ・校内で避難生活を送る場面を想定し、学年ごとに次のテーマについて実際に体験してみることを伝える。 1年～災害時の食事の工夫 2年～災害時のトイレの使用 3年～避難所での防寒と睡眠の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年がどのような学習に取り組むかが(A・B～分かったか)(C～理解できたか)</li> </ul>
30	《各学年で集合》 2、冬の避難所での寒さを防ぐ方法について発表する。	○教師が授業の目的について説明し、前時で触れた防寒に役立つ物を指名して答えさせる。 ・イラストパネルを使い、防寒に役立つ物を思い出させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の内容を覚えているか。(C)</li> <li>・防寒に必要な物を思い出せたかどうか。(A,B)</li> <li>・生徒が協力して材料を見つけられたか。(C)</li> <li>・実際に材料を利用して何もしないよりは暖かくなることを実感できたか。(A,B,C)</li> </ul>
20	3、実際に校内で防寒の材料になる物を探したり、集めた材料を利用したりして就寝スペースを作る。  《体育館に学部集合》 7、各学年が活動内容と感想について発表し、学習内容を共有する。	○段ボール、ビニール袋、新聞紙、サランラップなどがどこにありそうかヒントを与え、生徒達に探しに行かせる。 ○持ってきた防寒できそうな物を実際に下にひいたり、くるまったりして寝てみて暖かくなるかどうか試させる。 ・温度計を用意し、温度を測れる生徒には計らせ、変化を確認させる。 ○各学年の学習中の様子を写真や動画で撮影したものを見せ、学習の概要と生徒の感想を各学年の代表者に発表させる。(感想を書かせる)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年の取り組みを理解できたか。(C)</li> <li>・各学年がどんな活動をしたかを知ることができたか。(A,B)</li> </ul>

(2)場面設定 大きな災害が起こり、冬の学校での避難生活が長引いた状況を想定する。

(3)教材・教具 段ボール、ビニール袋、新聞紙、サランラップ、着替え、パワーポイント、iPad、感想用紙